

## 題目：理学療法分野におけるリーダーシップ教育の提案

保健医療学専攻・理学療法学分野・応用理学療法学領域

学籍番号：18S3032

氏名：高島 恵

研究指導教員：堀本 ゆかり教授

副研究指導教員：小野田 公准教授

キーワード：理学療法士，リーダーシップ，基礎的能力，チームワーク

### I. 研究の背景と目的

地域包括ケアシステムや高齢化社会の進展により，地域での取り組みを推進するリーダー人材が地域にも専門職にも求められている．一方，経験10年未満の理学療法士が管理者を務めている施設も多く，管理運営に対する困難感を抱える理学療法士が多く存在する．また，公益社団法人日本理学療法士協会において理学療法管理部門が発足したのは2013年と近年であり，リーダーシップやマネジメント能力の必要性は高いものの，十分な教育環境が整備されているとは言いがたい．さらに理学療法士作業療法士養成施設指定規則では，教育の目標として「課題解決能力」「関係諸機関との調整」「地域での教育的役割」などが含まれているが，本邦における理学療法士のリーダーシップに関する研究はほとんどなく，あるべきリーダーシップ像および養成教育の具体的な目標ともに定まっていない．このような背景から，理学療法分野におけるリーダーシップの在り方およびリーダーシップ教育に着目した．本研究では理学療法士に必要なリーダーシップ行動と基礎的能力を明らかにし，リーダーシップ教育を提案することを目的とする．

### II. 研究1：理学療法士が考える，リーダーシップ行動のあり方

【目的】全国の病院施設等に所属する理学療法士を対象に調査を実施し，理学療法士が考える必要なリーダーシップ行動および，基盤となる基礎的能力を明らかにする．

【対象と方法，倫理的配慮】対象は職能団体会員の所属する理学療法士とし，方法はリーダーシップ行動および基礎的能力についてアンケート調査を実施した．解析は，リーダーシップ行動は因子分析を実施し，役職および病期による因子平均の差について分散分析を実施した．基礎的能力は自由記載のテキストマイニングを行い，名詞の出現回数および類似した名詞をカテゴリー化した．なお本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号 18-Ig-132)．

【結果】リーダーシップ行動は17項目6因子となった．因子平均は「集団維持重視（メンテナンス型）」、「フォロワー育成と公平・公正な意思決定」，「役職によらないリーダーシップ（シェアド・リーダーシップ）」，「課題達成重視（パフォーマンス型）」の順で高く，「フォロワーの成功優先（サーバント・リーダーシップ）」，「カリスマおよび変革型」が低値であった．役職別では，一般職では「シェアド・リーダーシップ」が最も高く，主任及び係長以上は「メンテナンス型」が最も高かった．リーダーシップに必要な基礎的能力は，コミュニケーション，問題解決能力，アクションに関する単語の出現頻度が高かった．

【考察】理学療法士が必要と考えるリーダーシップ行動は，集団維持重視（メンテナンス型），フォロワー育成と公平・公正な意思決定，役職によらないリーダーシップ（シェアド・リーダーシップ）であった．看護師の先行研究と比較すると，集団維持機能およびシェアド・リーダーシップが重視されている点は共通している一方で，フォロワー育成と公平・公正な意思決定については理学療法分野に特徴的な結果であった．

### Ⅲ. 研究2：関連職種が考える、理学療法士に必要なリーダーシップ行動およびチームワーク行動

【目的】理学療法士と連携する関連職種を対象に、理学療法士に必要と考えるリーダーシップおよびチームワーク行動に関する調査を実施し、それらを明らかにする。

【対象と方法、倫理的配慮】対象は医師，看護師，作業療法士，ケアマネジャー，管理栄養士，薬剤師，ソーシャルワーカーの7職種とし，方法は「理学療法士に必要なリーダーシップ行動およびチームワーク行動」についてアンケート調査を実施した。解析はリーダーシップ行動およびチームワーク行動ともに因子分析を実施し，因子平均の傾向および職種による差を分析した。なお，本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号19-Ig-127）。

【結果】リーダーシップ行動は除外項目なしで4因子となった。因子平均は「集団維持と課題達成重視（PM型リーダーシップ）」、「シェアド・リーダーシップと公平・公正な意思決定」，「フォロワーの成功優先（サーバント・リーダーシップ）」，「カリスマおよび変革型」の順で高く，特に「PM型リーダーシップ」と「シェアド・リーダーシップと公平・公正な意思決定」は7職種中5職種が高値であった。一方「カリスマおよび変革型」は全職種が低値であった。チームワーク行動は除外項目なく9因子であった。因子平均は「問題解決と公平対応」，「話し合いによる調整」，「状況把握」，「相手の感情の読み取り」，「後方支援，関係構築」，「業務遂行の指導」，「明確な言語化」の順で高く，「同調，調和」，「個人の信念を貫く」は低値であった。職種の差は認められなかった。必要度の高いリーダーシップとチームワーク行動の相関係数はすべて0.5以上であった。

【考察】関連職種が理学療法士に必要と考えるリーダーシップ行動は，集団維持・課題達成重視（PM型リーダーシップ），シェアド・リーダーシップ，公平・公正な意思決定であり，必要なチームワーク行動は問題解決と公平対応，話し合いによる調整，状況把握，相手の感情の読み取りであった。またリーダーシップおよびチームワーク行動ともに「公平・公正」および「問題解決・意思決定」が重視されていた。

### Ⅳ. 研究3：理学療法士に必要なリーダーシップ行動に関する卒前教育の提案

【目的】研究1及び研究2で得られたデータをもとに，(1)理学療法士に必要なリーダーシップ，(2)リーダーシップに必要な基礎的能力，(3)理学療法士に必要なリーダーシップと基礎的能力の関係性を明らかにし，それらをもとに理学療法分野に必要なリーダーシップ教育を提案する。

【方法】研究1及び研究2で得られたデータを使用し，(1)は全職種のリーダーシップ行動に関するデータの因子平均における差の検定，(2)は理学療法士が回答した基礎的能力において出現頻度の高い項目と，関連職種が回答したチームワーク行動のうち必要度の高い項目に出現する単語を集約し，それらの類似点や相違点を整理，(3)はリーダーシップ行動で必要度の高い2因子とチームワーク行動で必要度の高い4因子の関係性について共分散構造分析によるパス解析を行った。

【結果】関連職種と理学療法士において，理学療法士に必要なリーダーシップの認識に差はなかったことから，理学療法士に必要なリーダーシップは「集団維持と課題達成重視（PM型リーダーシップ）」および「シェアド・リーダーシップと公平・公正な意思決定」である。また理学療法士に必要な基礎的能力は「コミュニケーション」，「問題解決能力」，「主体性と進捗管理」，「倫理観・市民性」であり，これらはリーダーシップと強い因果関係にあることから，リーダーシップに必要な基礎的能力である。

【提案】以上の結果をもとに，実績のある教育内容やコンピテンシーを参照し，カリキュラム開発の手順に則りリーダーシップ教育を提案する。入学前から卒業までを教育期間ととらえ，卒前および卒業後の学習アウトカムを設定し，それらに応じた教育内容および評価を合わせて提案する。